
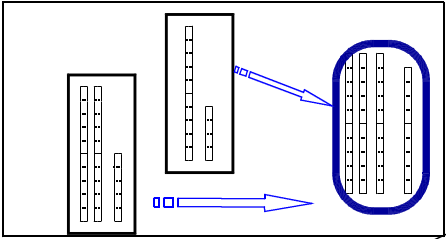


2年	整数のたし算	2位数+2位数（繰り上がりなし）
<b>【ねらい】</b> 2位数の加法計算の仕方について、具体的な買い物場面で考えることを通して、位ごとに分けて計算することに気づき、加法の筆算の仕方を理解する。		

<b>課題</b> あきらさんは、25円のグミと14円のカップゼリーを買います。だいまはいくらになりますか。	どのように考えれば解けるかな。 計算の仕方を考えましょう。	
---	----------------------------------	---

<b>既習事項</b> ①プラスチックのお金を使ったり、お金の絵をかいたりすればできそう。（お金の模型、絵で表す） ②ブロックを使ってできそうだよ。（ブロックを使用） ③前にたし算でやったように、十の位と一の位に分ければできるかも。（加数分解・被加数分解）
---

<b>自力解決</b> ①実際にたしてみると答えは39円になります。 $101011111 + 101111 \rightarrow 10101011111111$  ②ブロックを使って、十の位と一の位に分けてたしてみると簡単にできた。30と9で39だから、答えは39円よ。 ③十の位と一の位に分けて計算すると、 $20 + 10 = 30$ $5 + 4 = 9$ だから $30 + 9 = 39$ 答えは39円になりました。 $\begin{array}{r} 25 \\ + 14 \\ \hline 20 \quad 5 \quad 10 \quad 4 \\ \hline 30 + 9 = 39 \end{array}$	<b>指導上の留意点</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 具体物、半具体物等を使って、位ごとに分けて計算していることに気付かせる。</li> <li>● 図や式、言葉を使ってノートに自分の考えを書かせる。</li> </ul>
<b>集団思考</b> <b>1 自分の考えをペアで発表し合う。</b> ①実際にたしてみました。 ②ぼくはブロックを使って十の位と一の位に分けて考えました。 ③私は計算で考えました。25は20と5に分けられます。同じように14も10と4に分けられるので、 $20 + 10 = 30$ 、 $5 + 4 = 9$ これをたして39になりました。 考え方の似ているところ、なるほどと思ったことはどんなことかな。 <b>2 計算の仕方についてそれぞれの考え方のよさや共通点を話し合う。</b> お金もブロックも計算も位を分けて考えているところが似ているね。 どれも十の位と一の位に分けているわ。位を分けて計算すると簡単にできるわ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 互いの考えを確認する。ペアでの発表を取り入れることで、全ての児童に発表機会を確保し、共通点や相違点を確認させる。</li> <li>● 類型化した考え方を発表させ、多様な表現方法や考えのよさに気付かせる。</li> </ul>

### 3 位ごとに計算する筆算の仕方をまとめる。

似ているところから考えると、どんなことが言えるかな。



十の位と一の位に分けると簡単に計算することができます。



● どの考え方も位を分けて計算しているという共通点に気付かせ、簡潔さ・明瞭さ・一般性の観点から筆算の仕方をまとめていく。

ま  
と  
め

#### ○ 適用問題に取り組む。(教科書や単元問題ライブラリー)

- 位をそろえて縦に書く。  
一の位から順番に計算していく。